

菅公学生服が進出協定を調印 鳥取県大山町にスクールユニフォームの新工場設立へ

菅公学生服株式会社（本社：岡山市北区駅元町 社長：尾崎茂）は、鳥取県西伯郡大山町に新工場を設置することを決定。鳥取県知事の平井伸治様、大山町町長の森田増範様ご出席の上、鳥取県知事公邸にて、鳥取県様、大山町様との間で協定書の調印を行いました。

工場設立の経緯としては、近年の受注増に伴い自社の18工場（生産の従業員約2000人）もほぼフル生産で稼働しており、生産能力確保がかねてよりの課題でありました。スクールユニフォームという人の手を多く介する商品を作るためには、立ち上げ支援・技術支援が非常に重要となるため、既存の基幹工場（岡山県倉敷市の倉敷工場、鳥取県米子市の米子工場、宮崎県都城市の都城工場、鹿児島県志布志市の志布志工場）の近隣で検討を続けておりましたところ、鳥取県大山町様より旧大山電機様（住所：鳥取県西伯郡大山町所子105、総敷地面積：12,173㎡、延床面積：2,998㎡）を利用した非常に素晴らしいご提案をいただき、今回の新工場設置となりました。

新工場は米子工場グループとして運営してまいります。米子工場は米子市誘致企業第一号として、また菅公学生服としても初の県外工場として昭和39年（1964年）に創業し、来年50周年を迎える歴史ある工場です。この工場は「黄綬褒章」、「現代の名工」を受章した社員が育った工場、技術の伝承が今も日々行われております。

新工場の当初操業人数は80人を予定しており、この新工場設立により、米子工場グループとしては7つの工場と約600人の従業員を抱える規模のグループとなります。

調印式後の記者会見では、社長が「鳥取県様、大山町様の様々なご支援に応えるべく、菅公学生服の主力を担う、地域に愛される工場になるようしっかりと運営していきたい」と抱負を述べました。

なお、投資額は約5億円で、今後2014年春頃には着工し、10月操業を目指して進めてまいります。

以上



右から鳥取県知事平井伸治様、菅公学生服社長尾崎茂、大山町町長森田増範様



新工場